

ローマ 13

“人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです。”

ローマ人への手紙 13章1節

“したがって、権威に逆らっている人は、神の定めにもそむいているのです。そむいた人は自分の身にさばきを招きます。”

ローマ人への手紙 13章2節

“支配者を恐ろしいと思うのは、良い行いをするときではなく、悪を行うときです。権威を恐れたくないと思うなら、善を行いなさい。そうすれば、支配者からほめられます。”

ローマ人への手紙 13章3節

“それは、彼があなたに益を与えるための、神のしもべだからです。しかし、もしあなたが悪を行うなら、恐れなければなりません。彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。彼は神のしもべであって、悪を行う人には怒りをもって報います。”

ローマ人への手紙 13章4節

“ですから、ただ怒りが恐ろしいからだけでなく、良心のためにも、従うべきです。”

ローマ人への手紙 13章5節

“同じ理由で、あなたがたは、みつぎを納めるのです。彼らは、いつもその務めに励んでいる神のしもべなのです。”

あなたがたは、だれにでも義務を果たしなさい。みつぎを納めなければならない人にはみつぎを納め、税を納めなければならない人には税を納め、恐れなければならない人を恐れ、敬わなければならない人を敬いなさい。”

ローマ人への手紙 13章6～7節

“ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくださいます。”

コリント人への手紙 第二 9章7節

“だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことについては別です。他の人を愛する者は、律法を完全に守っているのです。”

「姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな」という戒め、またほかにどんな戒めがあっても、それらは、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」ということばの中に要約されているからです。

愛は隣人に対して害を与えません。それゆえ、愛は律法を全うします。”

ローマ人への手紙 13章8～10節

“いっさいのことを愛をもって行いなさい。”

コリント人への手紙 第一 16章14節

“あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行いなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからです。”

夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか。”

ローマ人への手紙 13章11～12節